

市政に関する地域座談会実施報告書

開催日時	平成22年11月11日（木）午後7時30分～午後9時00分		
会場	清助新田集落センター	出席者数	19人 (男17・女 2)
地域座談会の内容（市長講話・質疑応答の内容等）			
《市長講話》 資料により、①市政の課題（景気・雇用対策と少子・高齢化対策）②市振興計画の見直し③財政健全化について説明した。			
《質疑・応答》			
1.（質問）			
①来年4月から実施される中学校給食ですが、日東ベスト高松工場において、進められていることは大変ありがたいことです。市の食育計画の地産地消ということから、出来るだけ地元の食材を使ってやっていただきたいが、市内の食材使用の割合の目標とかあったら伺いたい。			
【回答：市長】			
①日東ベストにおいて、給食センターを建設し1,400食の調理を行い提供していきます。また、各中学校でも受入施設の整備を進めているところです。献立は市で作成しますので、そのための管理栄養士を10月から教育委員会に配置し、その準備に当たっている。地産地消については、やれるところは全部やりたいが、地元の食材が、1年を通して全部揃うことにはならないのが現状です。小学校についてはこれまでやってきている地元業者等との繋がりもあり、なかなか一括とはいきませんが、中学校給食分については、現在、農協等とも相談し契約栽培の様なことで、地元の食材をある程度長い期間確保できるような準備、契約に持っていけるよう進めているところです。100%地元のものとは行かないが、出来る限りこれまで以上に使用していくために検討を進めている。地元の食材を確保して、安心していただけるような対策を講じていきたい。			
2.（質問）			
みはらし公園への助成ありがとうございました。未だ、計画途中ですので、これからも協力よろしくをお願いします。			
①当地区は市公共下水道がはいらないので、浄化槽の助成を行っていくことを承知しておりますが、その排水問題について、私も改良区にも係わっておりますのでお聞きしたい。家庭用雑排水として安易に用水路に流される			

と、水田への影響が大変心配される。浄化槽の性能が良くなったとは云え、その水で栽培されたということで米のイメージが悪くなる。決められた水路に流されるようお願いしたい。

- ②先日、父が体調悪くなり、救急車で運ばれたのですが、搬送先が山形市済生館病院でした。寒河江市或いは西村山地区内で連携し、もっと近い所で様々な病気等の急患に対応できる体制にしてもらいたい。

【回答：市長】

- ①下水道については、市内全体に普及を広げていく従来の計画でしたが、進まない所が予測され、また、将来も見込めない様な所もあり、見直しを行っているところです。そこで、下水道と同じ様な効果があり、早くできる市町村設置型合併浄化槽での対応を検討している。これは、すべて市で管理するので下水道料金的なものをいただくことになるが、いろいろな自治体で導入しているようです。排水、側溝整備の問題についても、今後、利用者の方と一緒に、浄化槽対応と含めて十分協議していくことになる。
- ②西村山のどこの病院も完全ではないので、病気ごとに病院のすみ分けが必要と思う。県立中央や河北などの住み分け等も考えられるが、医師にも限りがあり、効果的な体制作りが必要である。今、県及び山大病院、市が一緒になって、医師の確保と効率的な配置を考え、西村山の地域医療のあり方について検討を始めているところです。出来るだけ近い所で、急患に対応できる体制をつくって行きたいと考えておりますので、ご理解をお願いします。

3. (意見・質問)

- ①寒河江市は、山形県の中心部に当たり交通網などの立地条件が良いのに、インパクトが弱いと感じる、寒河江市には、素晴らしい自然や史跡・文化があり、慈恩寺・葉山など現状ではもったいないので、もっと皆で全国にPRできないだろうか。人が来れば財政的にも潤い、さらに若い人が入ってくれば少子化も防げるし、企業・経済も発展すると思う。市の発展のためには、将来を見据えた市政と、市民との一体的となって取り組むことが必要であり、ご指導をいただきたい。意見と云うより感想のようなことです。
- ②高齢者が増えている中で、高松には医者が全くいない状況で、遠くまで容易に通院できない高齢者にとって、安心して生活出来ないという問題がある。
- ③高齢者の憩いの場として、寒河江市街には図書館・フローラなどの施設があるが、高松にはそのような施設が無い。少子化で空いている学校教室を高齢者に開放して、カラオケ・囲碁将棋などの娯楽を楽しんだり、子どもたちと交流するとか、工夫をこらしていけないだろうか。新たに高齢者のための施設を造っていくことは困難と思いますので、在る施設を有効に活用していかれるよう、行政でも研究していただきたい。

【回答：市長】

①立地条件の良さについては、何回か敷地を広げていただいている工業団地の会社（鮫川運送）が寒河江市が一番だと言っている。観光面で考えると、高速道路等での観光客の来やすさに加え、歴史性と物語（フィクション）性が大切であること、そして食もあるといい。その資源としての慈恩寺を更に磨き上げて全国に発信していくために、皆さんと行政、市民が力を合わせていくことが大事である。

市教育委員会では、慈恩寺シンポジウムを開催したり、先日は、国史跡指定に向けた協議会を設置するなど努力をしている。これから、地元の協力を得ながら調査に入っていきます。12月には奈良大学の先生をお呼びして、2回目の慈恩寺シンポジウムが予定されており、あらゆる機会を捉えて、国史跡指定に向け評価を高めて、市外・県外の方からも感心を持ってもらえるような取り組みを発信していきたい。

寒河江市が50～100年後も発展していけるよう頑張っていきますので、是非、慈恩寺シンポジウムにも参加いただきたいと思います。

②個人医院の開業となると公共の病院と違って、高松に来てくださいとはいかないので、高齢者の通院の足を確保するというところで、バスを廻していきたいと考えていました。利用が想定される方を中心にアンケートをしましたが、利用希望が大変少ない結果となり、バスを準備できないこととなった。これでは解決にならないので、これからの議論になるが、例えば高齢者の通院に使えるタクシー券を発行していくなど、交通手段のない人に対して利便性を確保していきたいと思っている。

③真面目に受け取っていきたい。学校の空き教室の利活用については、他のところで色々行っています。子ども達と高齢者のふれあいを通して、お互い刺激し合うこととなりますので、教室の空き具合など長い目で見ていく必要がありますが、考えていきたいと思っています。また、学校には図書がありますから、大人向けの図書などを入れて、高齢者も学校に来て若返ってもらうなど、学校開放の色々な試みの例もあるので、教育委員会とも十分話を進めていきたいと思っています。

4. (質問)

①先日、私の妻が車の中で頭が痛くなり河北病院に行ったが、レントゲンの先生が居らず、先生が来るまで1時間半かかると云われた。山形の病院に運ばれるとすぐに見てもらえると聞いたが、山形の中央病院に運ばれた人は助かり、河北病院に運ばれた人は助からないような感じを持った。同じ県民として、中央病院と同じ体制をつくって欲しい。

②資料の振興審議会の概要に「豊かな自然を保護し、美しい景観を保全していく」とあります。私の家からは月山・葉山・朝日などが見えるが、今は昔と違って、高圧電線が多数張られ景観を壊している。工業団地造成などで必要なのは分かるが、もう少し考えた鉄塔の配置にならないものなのか、

市に相談はないのか伺いたい。

【回答：市長】

①運ばれた病院によって生死が分かれるなどと云うことは、有ってはならないこと。

先の質問でも答えたように、医師の確保と病院の役割分担をしていく中で、住み分けを行い、確実に対応できる病院に運べるような体制をつくって行くことが大事だと思う。医療格差がなくなるよう、云うところは云って頑張っていきたいと思います。

②電線については、電力会社からは市に話がないので、機会を見て電力会社へ話していきたい。景観は金が掛からないようであるが、守っていくのが大変である。それぞれの方が、ある程度の我慢しながら景観を保全していくことが大事なので、意を汲んでいただけるよう、我々の方からも申しあげておきます。

5. (質問)

①少子化対策で総合的に事業を進めていく中、企業誘致についてですが、地方に来たいという企業は、どういう業種で、どのようなメリットを求めているのか。また、市では、現在、どういう考えで企業誘致を進めているのか伺いたい。

【回答：市長】

①本市の工業団地のメリットは、高速交通網と直結しており、県内では利便性が高い所なので、輸送業関係の企業からは良い条件となっている。

企業誘致は、工業団地間の競争になり、条件を良くして行かないと来なくなるので、市としても、税制の優遇・施設への支援などを行っている。今年、企業に少し動きがあり、今度、県知事も行きますが、山形県の企業誘致の売り込みをするところに、私も行ってまいります。これまで、問合せがあった企業を中心に営業活動をしてきたところがあったが、これからは、こちらから売り込んでいかなければならないと思う。

県の東京事務所に、天童市や酒田市など市職員が出向し、企業誘致活動をしている。その状況をみて効果が高ければ、寒河江市でも職員が東京事務所へ行っての企業誘致もあるのではと思っている。

新たな雇用を拡大するには、市外の企業から来てもらうこととなります。仙台寒河江会をつくらせてもらったが、各業種の方が入って企業誘致に関心を持っている方もおりますので、手がかりとしていく必要もある。頑張っていきたいと思っております。

6. (質問)

①農業問題で、私の考えを聞いていただきたい。少子高齢化の中ですが、サクランボの里さがえの農家としてやっていきたいと思っております。農業をしているのが、70歳近い方が殆どで、これから、持続してサクランボを

栽培していくことで、不安に感じていることは、ビニール張り或いは撤去するとき、落ちている人が毎年いる。兼業農家であっても、息子は会社を休めず、朝仕事をすると仕事にならないと云うことで、止むを得ず60歳以上の方から80歳以上の方までハウスに登らなければならず、事故が起きているようです。それで、JAから音頭を取ってもらいながら、建設業界等のプロの方々と連携を図れたらと思うが、そういう対策や方向性なども皆で考えていかないと、持続的な農業は出来ないのではないかと思います。

【回答：市長】

①お年寄りの方からも元気に頑張っていていただいておりますが、若い頃の精神であっても、体の方が付いていかないのかなと思います。

これからのサクランボ農家を維持していくためには、サポートとして他から求めていくことを考える必要があると思いますので、おっしゃる様な建設業などの人を求めていくことは、有効な手段ではないかと思います。ある程度、地域の方がまとまっていけば、業界の人も応援体制をつくれるのではないかと思います。皆さんの方で、農協と話をし、建設業界とも話をするとかもあります。異業種連携をつくって、サクランボの維持に繋がっていくことになれば素晴らしいことです。市としても何か支援できればと思っております。私も懸念される状況を、建設クラブ等と機会のある時にお話できればと思っております。